

各位

平成 17 年 1 月 28 日

会社名 F D K 株式会社
代表者名 代表取締役社長 杉本 俊春
(コード番号 6955 東証第一部)
問合せ先 財務経理部長 辻井 浩二
TEL (03)3434-1271

平成 17 年 3 月期の業績予想の修正について

平成 16 年 10 月 28 日の中間決算発表時に公表した平成 17 年 3 月期の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 連結通期 (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	104,000	3,400	1,350	500
今回予想(B)	98,000	1,500	950	2,700
増減額(B)-(A)	6,000	1,900	2,300	3,200
増減率	5.8%	55.9%	-	-
(ご参考)前年同期実績	102,668	1,650	3,794	8,755

2. 単独通期 (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	61,000	1,500	600	300
今回予想(B)	57,300	400	1,600	2,800
増減額(B)-(A)	3,700	1,900	2,200	3,100
増減率(%)	6.1%	-	-	-
(ご参考)前年同期実績	64,287	1,132	3,243	8,997

3. 修正の理由

当年度上半ばからフラットパネルディスプレイ市場が調整局面に入り、液晶ディスプレイ用ハイブリッドモジュール、プラズマディスプレイ用ハイブリッドモジュールなどの受注が減少いたしました。その後、下期に入り液晶ディスプレイパネル市場はほぼ回復いたしました。一方、プラズマディスプレイパネルは、プラズマテレビの分野である大型サイズにおいても液晶ディスプレイが受け入れられ始めたことなどの影響もあり、市場競争がさらに激化し、そのなかでパネルメーカー間の格差も拡大してきました。そのような背景のなかで、プラズマディスプレイ用ハイブリッドモジュールの売上高が前回の計画に対して大幅に減少する見込みとなりました。この急激な売上高の減少に対して固定費の吸収が追いつかず、損益が大幅に悪化する見込みとなりましたので上記のとおり業績予想を修正いたします。

4. 今後の課題と方向付け

当期は、急激な受注変動に充分対応できず損益の悪化を招いてしまいましたが、今後、受注の変動に強く、安定した利益を出せる体制にするために、

- ・ 昨年初めより取り組んでおります生産革新運動をさらに強力に全社展開し、生産効率の向上を図るとともに、在庫リスクを減らし変動に強い体質を目指す。
- ・ ローコストマニュファクチャリングを徹底的に追求する。特に、ハイブリッドモジュール等のボードアッセンブリが主体の製品については、徹底的な固定費の削減、スリム化を実行する。
- ・ 当社の素材技術を活かしたコンポーネント製品（電子部品や複合部品）の開発、戦列化に注力し、市況の変動の影響を受け難い強い製品を育成する。

を中心に改革を進めてまいります。

この改革を確実に、かつ効率的に実行するために、ボードアッセンブリ主体のモジュール製品についてはモジュールシステム事業本部に、また当社独自の素材技術を活かした製品についてはコンポーネント事業本部に、それぞれ組織を再編成いたします。なお、組織、人事の詳細につきましては確定次第別途お知らせいたします。さらにその改革施策の一貫として、平成17年4月1日を期して当社100%子会社であります「FDK販売株式会社」を吸収合併するとともに、営業体制を再編成し、一層の強化を図ってまいります。

（別途リリース「FDK販売株式会社の吸収合併に関するお知らせ」参照）

以 上

（注意事項）

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づいて算定しておりますが、多分に不確定な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等は、業況の変化等により、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

本リリースは、証券取引法166条に定められた「重要事実」に該当する情報を含んでおります。本リリースをご覧になられた場合は、インサイダー取引規制に関する「第一次情報受領者となり、公開後12時間以内（日本時間2005年1月29日、午前3時頃まで）に当社株式の売買等を行うことは禁止されますのでご注意ください。